授業改善推進プラン(生活･家庭科書式)　　教科（家庭科）

令和５年度授業改善推進プランの評価

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎・基本的な知識や技能を身に付けることができた。(調理実習、裁縫等)

学んだことを実際の生活で生かすことはまだ不十分である。

実態

授業中は、意欲的に学習に取り組んでいる。特に、調理実習や裁縫に意欲的で、お互いに声を掛け合ったり教え合ったりしながら、協力して活動することができる。しかし、実習を行う際に、自分で計画を立てることや見通しをもって学習することが苦手な児童も多い。児童の経験や知識、技能などに個人差があり、家庭科で学んだことを実際の生活の中で生かしきれていない場合がある。

指導上の課題

①計画、実践、評価、表現を通して課題を解決する力を育成すること。

②日常生活に必要な基礎的な知識の理解と、それらに係る技能の習得ができるようにすること。また、習得した技術を日常生活に生かせるようにすること。

③自分や家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

令和６年度の具体的授業改善

高学年

・ＩＣＴの活用

ICT を効果的に活用し、基礎的な知識・技能を身に付けさせる。(裁縫や調理の手順、方法の確認などで活用。) また、タブレットを活用してワークシートなどを作成し、写真で記録を残したり家庭でも見られるようにしたりする。

・家庭との連携

計画を立て、実行するだけでなく、実行したことを振り返ることでよりよい方法を工夫し、家族に協力し続けようとする態度を養う。学校での学習内容・実習内容等を学年だよりや保護者会を通して家庭にこまめに連絡し、家庭での協力を依頼する。

・問題解決の実践・活用

自分の生活を見直すことを通して、問題を見出し、課題を設定する。実践に向けて具体的に計画を立て、適切な解決方法を選べるようにし、実践させていく。また、単元を日常生活や学校生活などと関連させて取り扱い、学習したことを実際に活用できるようにする。

・ＳＤＧｓ

SDGｓへの参画の一環として、学習指導要領の内容Ｃ「消費生活・環境」（２）は総合「今、自分たちにできること」と関連付けて学習を進める。その中で、環境に負荷の少ない生活の仕方を考えさせる。また、「快適な住まい方」の授業において、身近な環境にできるだけダメージを与えないようにするための方法に気付かせ、自分たちに今できることを、学校生活でも家庭生活でも実践させていく。